

指定介護療養型医療施設の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例（平成 25 年神奈川県
条例第 19 号）新旧対照表

改 正	現 行
目次 第 1 章～第 5 章 （略） 第 6 章 雑則（第56条） <u>附則</u> 第 1 条・第 2 条 （略） （基本方針） 第 3 条 （略） 2・3 （略） 4 <u>指定介護療養型医療施設は、入院患者の人権の擁護、虐待の防止等のため、必要な体制の整備を行うとともに、その従業者に対し、研修を実施する等の措置を講じなければならない。</u> 5 <u>指定介護療養型医療施設は、指定介護療養施設サービスを提供するに当たっては、介護保険法第118条の2第1項に規定する介護保険等関連情報その他必要な情報を活用し、適切かつ有効に行うよう努めなければならない。</u> 第 4 条 指定介護療養型医療施設（療養病床（医療法（昭和23年法律第205号）第 7 条第 2 項第 4 号に規定する療養病床をいう。以下同じ。）を有する病院であるものに限る。）に置くべき従業者の員数は、次のとおりとする。 （1）医師及び薬剤師 それぞれ医療法に規定する療養病床を有する病院として必要とされる数以上 （2）～（4） （略） （5） <u>栄養士又は管理栄養士 療養病床の数が100以上の指定介護療養型医療施設にあつては、1以上</u> （6）（略） 2 （略） 3 指定介護療養型医療施設（健康保険法等の一部を改正する法律附則第130条の2第1項の規定によりなおその効力を有するものとされた健康保険法等の一部を改正する法律の一部の施行に伴う関係政令の整理に関する政令（平成23年政令第375号）第 1 条の規定による改正前の介護保険法施行令（平成10年政令第412号）第 4 条第 2 項に規定する病床により構成される病棟（以下「老人性認知症疾患療養病棟」という。）を有する病院（以下「老人性認知症疾患療養病棟を有する病院」という。）であるものに限る。）に置くべき従業者の員数は、次のとおりとする。 （1）医師及び薬剤師 それぞれ医療法上必要とされる数以上 （2）～（5） （略）	目次 第 1 章～第 5 章 （略） （新設） <u>附則</u> 第 1 条・第 2 条 （略） （基本方針） 第 3 条 （略） 2・3 （略） （新設） （新設） 第 4 条 指定介護療養型医療施設（療養病床（医療法（昭和23年法律第205号）第 7 条第 2 項第 4 号に規定する療養病床をいう。以下同じ。）を有する病院であるものに限る。）に置くべき従業者の員数は、次のとおりとする。 （1）医師、 <u>薬剤師及び栄養士</u> それぞれ医療法に規定する療養病床を有する病院として必要とされる数以上 （2）～（4） （略） （新設） （5）（略） 2 （略） 3 指定介護療養型医療施設（健康保険法等の一部を改正する法律附則第130条の2第1項の規定によりなおその効力を有するものとされた健康保険法等の一部を改正する法律の一部の施行に伴う関係政令の整理に関する政令（平成23年政令第375号）第 1 条の規定による改正前の介護保険法施行令（平成10年政令第412号）第 4 条第 2 項に規定する病床により構成される病棟（以下「老人性認知症疾患療養病棟」という。）を有する病院（以下「老人性認知症疾患療養病棟を有する病院」という。）であるものに限る。）に置くべき従業者の員数は、次のとおりとする。 （1）医師、 <u>薬剤師及び栄養士</u> それぞれ医療法上必要とされる数以上 （2）～（3） （略）

改 正	現 行
<p>(6) <u>栄養士又は管理栄養士 老人性認知症疾患療養病棟に係る病床の数及び療養病床の数の合計数が100以上の指定介護療養型医療施設にあっては、1以上</u></p> <p>(7) (略)</p> <p>4 (略)</p> <p>5 療養病床を有する病院であり、かつ、老人性認知症疾患療養病棟を有する病院である指定介護療養型医療施設に置くべき介護支援専門員の員数の標準は、<u>第1項第6号及び第3項第7号の規定にかかわらず、療養病床（専ら要介護者を入院させる部分に限る。）に係る病室における入院患者の数及び老人性認知症疾患療養病棟（専ら要介護者を入院させる部分に限る。）に係る病室における入院患者の数の合計数が100又はその端数を増すごとに1とする。</u></p> <p>6 指定介護療養型医療施設の従業者は、専ら当該指定介護療養型医療施設の職務に従事することができる者をもって充てなければならない。<u>ただし、</u></p> <p>_____ _____ _____ _____</p> <p><u>入院患者の処遇に支障がない場合は、この限りでない。</u></p> <p>7 <u>第1項第6号、第3項第7号及び第5項の介護支援専門員は、専らその職務に従事する常勤の者でなければならない。ただし、入院患者の処遇に支障がない場合は、当該指定介護療養型医療施設の他の業務に従事することができるものとする。</u></p> <p>8・9 (略)</p> <p>第5条～第16条 (略)</p> <p>(指定介護療養施設サービスの取扱方針)</p> <p>第17条 (略)</p> <p>2～5 (略)</p> <p>6 指定介護療養型医療施設は、身体的拘束等の適正化を図るため、次に掲げる措置を講じなければならない。</p> <p>(1) 身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会<u>（テレビ電話装置その他の情報通信機器（以下「テレビ電話装置等」という。）を活用して行うことができるものとする。）</u>を3月に1回以上開催するとともに、その結果について、介護職員その他の従業者に周知徹底を図ること。</p> <p>(2)・(3) (略)</p> <p>7 (略)</p> <p>(施設サービス計画の作成)</p>	<p>(新設)</p> <p>(6) (略)</p> <p>4 (略)</p> <p>5 療養病床を有する病院であり、かつ、老人性認知症疾患療養病棟を有する病院である指定介護療養型医療施設に置くべき介護支援専門員の員数の標準は、<u>第1項第5号及び第3項第6号の規定にかかわらず、療養病床（専ら要介護者を入院させる部分に限る。）に係る病室における入院患者の数及び老人性認知症疾患療養病棟（専ら要介護者を入院させる部分に限る。）に係る病室における入院患者の数の合計数が100又はその端数を増すごとに1とする。</u></p> <p>6 指定介護療養型医療施設の従業者は、専ら当該指定介護療養型医療施設の職務に従事することができる者をもって充てなければならない。<u>ただし、指定介護療養型医療施設（ユニット型指定介護療養型医療施設（第42条に規定するユニット型指定介護療養型医療施設をいう。以下この項において同じ。）を除く。）にユニット型指定介護療養型医療施設を併設する場合のこれらの施設の介護職員を除き、入院患者の処遇に支障がない場合は、この限りでない。</u></p> <p>7 <u>第1項第5号、第3項第6号及び第5項の介護支援専門員は、専らその職務に従事する常勤の者でなければならない。ただし、入院患者の処遇に支障がない場合は、当該指定介護療養型医療施設の他の業務に従事することができるものとする。</u></p> <p>8・9 (略)</p> <p>第5条～第16条 (略)</p> <p>(指定介護療養施設サービスの取扱方針)</p> <p>第17条 (略)</p> <p>2～5 (略)</p> <p>6 指定介護療養型医療施設は、身体的拘束等の適正化を図るため、次に掲げる措置を講じなければならない。</p> <p>(1) 身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会_____</p> <p>_____を3月に1回以上開催するとともに、その結果について、介護職員その他の従業者に周知徹底を図ること。</p> <p>(2)・(3) (略)</p> <p>7 (略)</p> <p>(施設サービス計画の作成)</p>

改 正	現 行
<p>第18条 (略)</p> <p>2～5 (略)</p> <p>6 計画担当介護支援専門員は、サービス担当者会議（入院患者に対する指定介護療養施設サービスの提供に当たる他の担当者（以下この条において「担当者」という。）を招集して行う会議（<u>テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。この場合において、入院患者又はその家族（以下この項において「入院患者等」という。）が参加するときにあっては、テレビ電話装置等の活用について当該入院患者等の同意を得なければならない。</u>）をいう。以下同じ。）の開催、担当者に対する照会等により、前項の施設サービス計画の原案の内容について、担当者の専門的な見地からの意見を求めるものとする。</p> <p>7～11 (略)</p> <p>第19条・第20条 (略)</p> <p>(栄養管理)</p> <p>第20条の2 指定介護療養型医療施設は、入院患者の栄養状態の維持及び改善を図り、自立した日常生活を営むことができるよう、各入院患者の状態に応じた栄養管理を計画的に行わなければならない。</p> <p>(口腔(くう)衛生の管理)</p> <p>第20条の3 指定介護療養型医療施設は、入院患者の口腔の健康の保持を図り、自立した日常生活を営むことができるよう、口腔衛生の管理体制を整備し、各入院患者の状態に応じた口腔衛生の管理を計画的に行わなければならない。</p> <p>第21条～第27条 (略)</p> <p>(運営規程)</p> <p>第28条 指定介護療養型医療施設は、次に掲げる施設の運営についての重要事項に関する規程（以下「運営規程」という。）を定めなければならない。</p> <p>(1)～(6) (略)</p> <p>(7) <u>虐待の防止のための措置に関する事項</u></p> <p>(8) (略)</p> <p>(勤務体制の確保等)</p> <p>第29条 (略)</p> <p>2 (略)</p> <p>3 指定介護療養型医療施設は、従業者の資質の向上のため、研修の機会を確保しなければならない。<u>この場合において、当該指定介護療養型医療施設は、全ての従業者（看護師、准看護師、介護福祉士、介護支援専門員、法第8条第2項に規定する政令で定める者等の資格を有する者その他これに類する者を除く。）に対し、認知症介護に係る基礎的な研修を受講させるために必要な措置を講じな</u></p>	<p>第18条 (略)</p> <p>2～5 (略)</p> <p>6 計画担当介護支援専門員は、サービス担当者会議（入院患者に対する指定介護療養施設サービスの提供に当たる他の担当者（以下この条において「担当者」という。）を招集して行う会議</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____をいう。以下同じ。）の開催、担当者に対する照会等により、前項の施設サービス計画の原案の内容について、担当者の専門的な見地からの意見を求めるものとする。</p> <p>7～11 (略)</p> <p>第19条・第20条 (略)</p> <p>(新設)</p> <p>_____</p> <p>(新設)</p> <p>_____</p> <p>第21条～第27条 (略)</p> <p>(運営規程)</p> <p>第28条 指定介護療養型医療施設は、次に掲げる施設の運営についての重要事項に関する規程（以下「運営規程」という。）を定めなければならない。</p> <p>(1)～(6) (略)</p> <p>(新設)</p> <p>(7) (略)</p> <p>(勤務体制の確保等)</p> <p>第29条 (略)</p> <p>2 (略)</p> <p>3 指定介護療養型医療施設は、従業者の資質の向上のため、研修の機会を確保しなければならない。 _____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>

改 正	現 行
<p>なければならない。</p> <p>4 <u>指定介護療養型医療施設は、適切な指定介護療養施設サービスの提供を確保する観点から、職場において行われる性的な言動又は優越的な関係を背景とした言動であって業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより従業者の就業環境が害されることを防止するための方針の明確化等の必要な措置を講じなければならない。</u></p> <p>(業務継続計画の策定等)</p> <p>第29条の2 <u>指定介護療養型医療施設は、感染症や非常災害の発生時において、入院患者に対する指定介護療養施設サービスの提供を継続的に実施するため及び非常時の体制で早期の業務再開を図るための計画（以下「業務継続計画」という。）を策定し、当該業務継続計画に従い必要な措置を講じなければならない。</u></p> <p>2 <u>指定介護療養型医療施設は、従業者に対し、業務継続計画について周知するとともに、必要な研修及び訓練を定期的実施しなければならない。</u></p> <p>3 <u>指定介護療養型医療施設は、定期的に業務継続計画の見直しを行い、必要に応じて業務継続計画の変更を行うものとする。</u></p> <p>第30条 (略)</p> <p>(非常災害対策)</p> <p>第31条 (略)</p> <p>2 <u>指定介護療養型医療施設は、前項に規定する訓練の実施に当たって、地域住民の参加が得られるよう連携に努めなければならない。</u></p> <p>(衛生管理等)</p> <p>第32条 (略)</p> <p>2 指定介護療養型医療施設は、当該指定介護療養型医療施設において感染症又は食中毒が発生し、又はまん延しないように、次に掲げる措置を講じなければならない。</p> <p>(1) 当該指定介護療養型医療施設における感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会 <u>(テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。)</u> をおおむね3月に1回以上開催するとともに、その結果について、介護職員その他の従業者に周知徹底を図ること。</p> <p>(2) (略)</p> <p>(3) 当該指定介護療養型医療施設において、介護職員その他の従業者に対し、感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための研修並びに感染症の予防及びまん延の防止のための訓練を定期的実施すること。</p> <p>(4) (略)</p> <p>第33条 (略)</p>	<p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p>第30条 (略)</p> <p>(非常災害対策)</p> <p>第31条 (略)</p> <p>(新設)</p> <p>(衛生管理等)</p> <p>第32条 (略)</p> <p>2 指定介護療養型医療施設は、当該指定介護療養型医療施設において感染症又は食中毒が発生し、又はまん延しないように、次に掲げる措置を講じなければならない。</p> <p>(1) 当該指定介護療養型医療施設における感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会 _____</p> <p>_____ をおおむね3月に1回以上開催するとともに、その結果について、介護職員その他の従業者に周知徹底を図ること。</p> <p>(2) (略)</p> <p>(3) 当該指定介護療養型医療施設において、介護職員その他の従業者に対し、感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための研修 _____</p> <p>_____ を定期的実施すること。</p> <p>(4) (略)</p> <p>第33条 (略)</p>

改 正	現 行
<p>(揭示)</p> <p>第34条 (略)</p> <p><u>2 指定介護療養型医療施設は、前項に規定する事項を記載した書面を当該指定介護療養型医療施設に備え付け、かつ、これをいつでも関係者に自由に閲覧させることにより、同項の規定による揭示に代えることができる。</u></p> <p>第35条～第38条 (略)</p> <p>(事故発生の防止及び発生時の対応)</p> <p>第39条 指定介護療養型医療施設は、事故の発生又はその再発を防止するため、次に掲げる措置を講じなければならない。</p> <p>(1)・(2) (略)</p> <p>(3) 事故発生の防止のための対策を検討する委員会(テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。)を定期的に開催すること。</p> <p>(4) (略)</p> <p><u>(5) 前各号に掲げる措置を適切に実施するための担当者を置くこと。</u></p> <p><u>2～4 (略)</u></p> <p><u>(虐待の防止)</u></p> <p>第39条の2 指定介護療養型医療施設は、虐待の発生又はその再発を防止するため、次に掲げる措置を講じなければならない。</p> <p>(1) 当該指定介護療養型医療施設における虐待の防止のための対策を検討する委員会(テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。)を定期的に開催するとともに、その結果について、介護職員その他の従業者に周知徹底を図ること。</p> <p>(2) 当該指定介護療養型医療施設における虐待の防止のための指針を整備すること。</p> <p>(3) 当該指定介護療養型医療施設において、介護職員その他の従業者に対し、虐待の防止のための研修を定期的に実施すること。</p> <p><u>(4) 前3号に掲げる措置を適切に実施するための担当者を置くこと。</u></p> <p>第40条～第42条 (略)</p> <p>(基本方針)</p> <p>第43条 (略)</p> <p>2 (略)</p> <p><u>3 ユニット型指定介護療養型医療施設は、入院患者の人権の擁護、虐待の防止等のため、必要な体制の整備を行うとともに、その従業者に対し、研修を実施する等の措置を講じなければならない。</u></p> <p><u>4 ユニット型指定介護療養型医療施設は、指定介護療養施設サービスを提供するに当たっては、介護保険法第118条の2第1項に規定する介護保険等関連情報その他必要な情報を活用し、適切かつ有効に行うよう努めなければ</u></p>	<p>(揭示)</p> <p>第34条 (略)</p> <p><u>(新設)</u></p> <p>第35条～第38条 (略)</p> <p>(事故発生の防止及び発生時の対応)</p> <p>第39条 指定介護療養型医療施設は、事故の発生又はその再発を防止するため、次に掲げる措置を講じなければならない。</p> <p>(1)・(2) (略)</p> <p>(3) 事故発生の防止のための対策を検討する委員会_____定期的に開催すること。</p> <p>(4) (略)</p> <p><u>(新設)</u></p> <p>2～4 (略)</p> <p><u>(新設)</u></p> <p>第40条～第42条 (略)</p> <p>(基本方針)</p> <p>第43条 (略)</p> <p>2 (略)</p> <p><u>(新設)</u></p> <p><u>(新設)</u></p>

改 正	現 行
<p><u>ならない。</u></p> <p>第44条 (略)</p> <p>2 ユニット型指定介護療養型医療施設のユニット、廊下、機能訓練室及び浴室は、次の基準を満たさなければならない。</p> <p>(1) ユニット</p> <p>ア 病室</p> <p>(ア) (略)</p> <p>(イ) 病室は、いずれかのユニットに属するものとし、当該ユニットの共同生活室に近接して一体的に設けるとともに、一のユニットの入院患者の定員は、<u>原則としておおむね10人以下とし、15人を超えないもの</u>とすること。</p> <p>(ウ) (略)</p> <p>(削除)</p> <p>(エ) (略)</p> <p>イ～エ (略)</p> <p>(2)～(4) (略)</p> <p>3～5 (略)</p> <p>第45条 (略)</p> <p>2 ユニット型指定介護療養型医療施設のユニット、廊下、機能訓練室及び浴室は、次の基準を満たさなければならない。</p> <p>(1) ユニット</p> <p>ア 病室</p> <p>(ア) (略)</p> <p>(イ) 病室は、いずれかのユニットに属するものとし、当該ユニットの共同生活室に近接して一体的に設けるとともに、一のユニットの入院患者の定員は、<u>原則としておおむね10人以下とし、15人を超えないもの</u>とすること。</p> <p>(ウ) (略)</p> <p>(削除)</p> <p>(エ) (略)</p> <p>イ～エ (略)</p> <p>(2)～(4) (略)</p> <p>3～5 (略)</p> <p>第46条 (略)</p> <p>2 ユニット型指定介護療養型医療施設のユニット、廊下、生活機能回復訓練室及び浴室は、次の基準を満たさなければならない。</p> <p>(1) ユニット</p>	<p>第44条 (略)</p> <p>2 ユニット型指定介護療養型医療施設のユニット、廊下、機能訓練室及び浴室は、次の基準を満たさなければならない。</p> <p>(1) ユニット</p> <p>ア 病室</p> <p>(ア) (略)</p> <p>(イ) 病室は、いずれかのユニットに属するものとし、当該ユニットの共同生活室に近接して一体的に設けるとともに、一のユニットの入院患者の定員は、<u> </u>おおむね10人以下<u> </u>とすること。</p> <p>(ウ) (略)</p> <p>(エ) <u>ユニットに属さない病室を改修したもののについて、病室を隔てる壁と天井との間に一定の隙間が生じる場合は、入院患者同士の視線の遮断を確保すること。</u></p> <p>(オ) (略)</p> <p>イ～エ (略)</p> <p>(2)～(4) (略)</p> <p>3～5 (略)</p> <p>第45条 (略)</p> <p>2 ユニット型指定介護療養型医療施設のユニット、廊下、機能訓練室及び浴室は、次の基準を満たさなければならない。</p> <p>(1) ユニット</p> <p>ア 病室</p> <p>(ア) (略)</p> <p>(イ) 病室は、いずれかのユニットに属するものとし、当該ユニットの共同生活室に近接して一体的に設けるとともに、一のユニットの入院患者の定員は、<u> </u>おおむね10人以下<u> </u>とすること。</p> <p>(ウ) (略)</p> <p>(エ) <u>ユニットに属さない病室を改修したもののについて、病室を隔てる壁と天井との間に一定の隙間が生じる場合は、入院患者同士の視線の遮断を確保すること。</u></p> <p>(オ) (略)</p> <p>イ～エ (略)</p> <p>(2)～(4) (略)</p> <p>3～5 (略)</p> <p>第46条 (略)</p> <p>2 ユニット型指定介護療養型医療施設のユニット、廊下、生活機能回復訓練室及び浴室は、次の基準を満たさなければならない。</p> <p>(1) ユニット</p>

改 正	現 行
<p>し、認知症介護に係る基礎的な研修を受講させるために必要な措置を講じなければならない。</p> <p>5 ユニット型指定介護療養型医療施設は、適切な指定介護療養施設サービスの提供を確保する観点から、職場において行われる性的な言動又は優越的な関係を背景とした言動であって業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより従業者の就業環境が害されることを防止するための方針の明確化等の必要な措置を講じなければならない。</p> <p>第54条 (略) (準用)</p> <p>第55条 第8条から第14条まで、第16条、第18条から第20条の3まで、第24条から第27条まで、<u>第29条の2</u>及び第31条から第41条までの規定は、ユニット型指定介護療養型医療施設について準用する。この場合において、第8条第1項中「第28条に規定する運営規程」とあるのは「第52条に規定する重要事項に関する規程」と、第26条第2項中「この章」とあるのは「第5章第3節」と、第27条中「第18条」とあるのは「第55条において準用する第18条」と、同条第3号及び第41条第2項第5号中「第37条第2項」とあるのは「第55条において準用する第37条第2項」と、第27条第4号及び第41条第2項第6号中「第39条第3項」とあるのは「第55条において準用する第39条第3項」と、同項第2号中「第14条第2項」とあるのは「第55条において準用する第14条第2項」と、同項第3号中「第17条第5項」とあるのは「第48条第7項」と、同項第4号中「第24条」とあるのは「第55条において準用する第24条」と読み替えるものとする。</p> <p><u>第6章 雑則</u> (電磁的記録等)</p> <p>第56条 <u>指定介護療養型医療施設及びその従業者は、この条例の規定による作成、保存その他これらに類するもののうち、この条例において書面（書面、書類、文書、謄本、抄本、正本、副本、複本その他文字、図形等人の知覚によって認識することができる情報が記載された紙その他の有体物をいう。以下この条において同じ。）で行うことが規定され、又は想定されるもの（第11条第1項（第55条において準用する場合を含む。）及び第14条第1項（第55条において準用する場合を含む。）並びに次項に規定するものを除く。）については、書面に代えて、当該書面に係る電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他の人の知覚によっては認識することができない</u></p>	<p>(新設)</p> <p>第54条 (略) (準用)</p> <p>第55条 第8条から第14条まで、第16条、第18条から<u>第20条</u>まで、第24条から第27条まで<u> </u>及び第31条から第41条までの規定は、ユニット型指定介護療養型医療施設について準用する。この場合において、第8条第1項中「第28条に規定する運営規程」とあるのは「第52条に規定する重要事項に関する規程」と、第26条第2項中「この章」とあるのは「第5章第3節」と、第27条中「第18条」とあるのは「第55条において準用する第18条」と、同条第3号及び第41条第2項第5号中「第37条第2項」とあるのは「第55条において準用する第37条第2項」と、第27条第4号及び第41条第2項第6号中「第39条第3項」とあるのは「第55条において準用する第39条第3項」と、同項第2号中「第14条第2項」とあるのは「第55条において準用する第14条第2項」と、同項第3号中「第17条第5項」とあるのは「第48条第7項」と、同項第4号中「第24条」とあるのは「第55条において準用する第24条」と読み替えるものとする。</p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p>

改 正	現 行
<p><u>方式で作られる記録であって、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。）により行うことができる。</u></p> <p>2 <u>指定介護療養型医療施設及びその従業者は、この条例の規定による交付、説明、同意、承諾その他これらに類するもの（以下「交付等」という。）のうち、この条例において書面で行うことが規定され、又は想定されるものについては、当該交付等の相手方の承諾を得て、書面に代えて、電磁的方法（電子的方法、磁気的方法その他人の知覚によって認識することができない方法をいう。）により行うことができる。</u></p>	